

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0872600051		
法人名	(有)福祉未来計画		
事業所名	グループホーム榎子木		
所在地	茨城県那珂市戸崎508番地3		
自己評価作成日	平成23年5月30日	評価結果市町村受理日	平成23年9月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://ibaraki-kouhyou.as.wakwak.ne.jp/kouhyou/infomationPublic.do?JCD=0872600051&SCD=320>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人認知症ケア研究所		
所在地	茨城県水戸市酒門町字千東4637-2		
訪問調査日	平成23年8月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑豊かな自然の中のホームで明るい笑顔のスタッフと、四季折々の行事を通じ季節感を感じながら、家族や地域の人々と交流できます。すぐ近くの公園や森で散歩や軽い運動、森林浴などを楽しめます。近くの協力医院の往診、看護スタッフの配置など健康管理にも留意しています。スプリンクラー、ホットライン(消防署への直通通報装置)なども完備し、災害にも備えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

門を入ると広々とした敷地内は広い芝生によく手入れされた植木や大きな桜の木等が豊かに茂っており公園の中の別荘のような佇まいの1ユニットのホームである。地域住民とは奉仕作業に参加したり、敬老会に招待されたり、ホームの花見に招待したりと親しい関係ができており、災害時の協力等も含めて地域の一員として自然な交流をしている。
管理者・職員はお互いに信頼し合っており、職員はそれぞれが各委員会の責任者になって職務を分担し、お互いが責任をもって率直な意見を出し合いながら日々のケアに真剣に取り組んでいる。
利用者は職員に見守られながら趣味の書道、裁縫、畑仕事、庭の手入れ等の趣味活動を楽しみ、近くの公園を散歩したり、広い庭でお茶や食事を楽しんだり、頻繁に訪問する家族と外出したりとそれぞれが个性的に、また家庭的な雰囲気の中で和気藹々と笑顔で暮らしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	榎子木のこころ「友愛」 地域や家庭との結びつきを重視した明るく家庭的な雰囲気のあるホームを目指し、職員全体で事業計画を作成するほか毎日の申し送りや日常のケアを通して理念の共有を図っている。	設立当初からの理念「友愛」を意識しながら、全職員で毎年の事業計画を作成し、理念に基づいたケアができるようにしている。	全職員で、地域密着型サービスの意義や地域におけるホームの役割などについて確認し、地域密着型サービス事業所としての役割を意識しながら、理念についてより掘り下げた話し合いを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の方たちとは、挨拶を交わしたり、行事などを通じて交流を行っている。 草刈等の奉仕活動、地域活動にも参加している。	近隣住民とは年2回の奉仕活動(草刈り)に参加したり、敷地外の畑の手入れ時や散歩の際に挨拶を交わす等して親しい関係を作っている。 地域で催す敬老会・講演会・季節の行事に参加したりホームで開催する花見に地域の方々を招待したり、ボランティアを受け入れる等地域との交流を積極的に進めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々や民生委員の相談に乗ったり、できる範囲で協力しているが、今後、要望があれば、さらに地域貢献に努めたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市町村と相談し昨年度は年5回開催したが、今年度もより多く開催したい。会議の中で、利用者やサービスの実際、評価への取り組み等の話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	家族・民生委員・自治会役員・市の担当者の出席を得て開催している。会議ではホームの状況や行事等の報告をしながら出席者から様々な意見や要望を頂いている。要望を取り入れて玄関入り口のステップをわかりやすくしたり地元消防団との話し合いを試みたりしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂いたり、入居者の些細な心配事にも適宜市町村を訪問し相談事にもつもらったり、定期的な連絡等を行っている。	市の担当職員は毎月ホームを訪れ、声かけしながら利用者の日々の様子を把握している。職員はホームの実情や取り組み状況を積極的に知らせたりして、何時でも協力が得られるよう取り組んでおり、法律的なことも含めて困ったことがあれば何時でも気軽に相談できる関係ができている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は、身体拘束に関する研修を受け、玄関の施錠等も含め身体拘束をしないケア(日常生活でも言葉による拘束にならないように注意する)に取り組んでいる。	管理者・職員共に身体拘束についての研修を定期的に受講しており、拘束による弊害についても十分承知している。門は常に開放しており、玄関の施錠も日中はせず開放感のある自由な暮らしができるよう取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議・研修等において高齢者虐待について学ぶ機会を持ち、職員の意識向上を図っている。		

茨城県 グループホーム榎子木

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会議・研修等において日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性について考え、それらを活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者・ケアマネジャー同席し、十分な説明を行い、理解・納得していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族等が意見・要望を出せるように意見箱設置など聞く努力をしている。また、行事等に参加の際、家族の交流の機会を設け、その中で出してもらった意見を運営に反映させている。	年3回の家族会は家族だけで話し合い、意見や要望を出してもらっている。また月1回の利用料の支払時や介護計画の作成時には状況の報告をしながら意見や要望を聴いている。出された意見・要望は運営推進会議や職員会議などで検討し運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月定期的に職員会議を行い職員の意見や提案を聞く機会を設け、運営に反映させている。	毎月の職員会議は全職員出席できるよう午後7時頃から開催しており、意見や提案を言い易くするために食事をしながら話し合う事もある。職員の提案で「ヨシズ」の購入や緑のカーテン用「朝顔」の植え付け、畑作りなどを実現させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	利用者の介護度にあわせ、勤務シフトに余裕が出るように配慮する努力をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修さらに外部研修にも業務に支障のない範囲で参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修会等に出来るだけ参加できるようにしている。ネットワークづくり、勉強会、相互訪問等の活動などは今後取り組んでいきたい。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前にご家族・担当ケアマネジャー等と連絡し、実調を行い、ご本人が困っていること、不安なこと、要望等を伺い、本人が安心できる関係づくりに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入の段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾け、信頼関係づくりに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の状況、その時々々の要望に応じ、柔軟な支援を行い、状況に応じて他のサービスを勧める場合もある。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者のそれまでの生活を尊重した働きかけをするようにしている。その関わりのなかで職員が利用者に教えて頂くこともあり、支え合う関係づくりを心がけている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と利用者のそれまでの生活を尊重した働きかけをするようにしている。その関わりのなかで、ご家族と共に支え合う関係づくりを心がけている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、親族等の面会も自由にでき、買い物や受診時に本人のなじみの場所をできるだけ通るような配慮をしている。会話の中でも、馴染んだ場所や人のことを意識的に話すようにしている。	利用開始時に本人の地域での生活ぶりなどを丁寧に聞き取り、付き合いのあった方々との交流が途切れないよう努めている。利用開始後も家族の協力を得ながら行きつけの店に買い物に出かけたり、習字などの習い事をホームでも継続したり、以前の職場の方々の協力を得て会社を訪れたり、遠方の友人・親族にはお便りを書く・電話を掛ける等して関係が途切れないよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の個性を大切にしながら、利用者同士が支え合えるように支援している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された利用者の家族の方にも、気軽に訪れることができるような雰囲気づくりに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員全員が利用者に関する情報を共有し、利用者の意向を尊重した関わりができるように配慮している。利用者が希望を十分伝えられない場合は、家族も含めて話し合い、利用者の希望に沿ったサービスの提供に努めている。	元気な頃の話聞きながら本人の意向をそれとなく聞き取ったり、センター方式等も取り入れて常に利用者の思っていること・希望していることを記録に残し、ケアカンファレンスや申し送り時に全職員で話し合い、共有を図っている。言葉での表現が困難な利用者の中には、生活パターンシートの記録や家族の思い等を基に本人の思いを大切に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や知人の話を聞くなぞ、これまでの暮らしをできるだけ把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式の生活リズムパターン表などを活用し、できるだけ記録に残すようにし、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は、本人、家族、必要な関係者で相談し立案している。	担当制を用いており、各担当から利用者それぞれの意向や生活状況を報告し、全職員で検討し、計画作成担当者が介護計画としてまとめている。介護計画は全職員のアイデアや家族の思いを活かして利用者それぞれの暮らしを意識しながら丁寧に作成されていた。モニタリングも定期的・随時に行われ利用者の現状に合わせた見直しも実施されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活リズムパターン表や日誌、記録等の活用、申し送り等を行い、職員間で情報を共有し、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	単独事業につき、現在、サービスの多機能化には取り組んでいない。		

茨城県 グループホーム榎子木

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、馴染みのかかりつけ医等希望を伺い、本人やご家族と相談し納得の得られたかかりつけ医の受診を支援している。また、近隣の内科・泌尿器科医と提携し往診サービスを受けている。	本人・家族の希望によりかかりつけ医への受診を支援している。基本的には家族対応となっているが、場合によっては職員が協力している。協力医院による月1回の往診は全員が受診しており、必要に応じてかかりつけ医・専門医と連絡を取り合っている。利用者一人ひとりの病状等は受診記録で全職員が把握しており、緊急時にも適切な医療が受けられるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護・介護兼務職員を採用し、内科医の往診により健康管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者と情報交換や相談に努め、入院、早期退院に備えて連携している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、重度化した場合や終末期に事業所ができること、対応を家族等と話し合っている。利用者が、日々をより良く暮らせるようにかかりつけ医、地域関係者と相談・連携し、今後の変化に備えている。	看取りを行わないホームの方針は契約時に利用者・家族へ十分説明し了解を得ており、全職員も承知している。重度化に伴う利用者・家族の不安を解消する為の話し合いは常に行い、利用終了後の方針が決まるまで責任を持って相談に応じている。重度化にも対応できるよう協力医院のドクターは24時間いつでも対応可能になっており、職員も研修を実施して重度化した場合のケアに備えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応ができるよう定期的に訓練している。		

茨城県 グループホーム榎子木

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災避難訓練を実施し、利用者の避難方法を職員が身につけている。建物にはスプリンクラー設備、消防署への直通電話あり。災害時の避難場所も隣接している。	消防署と協力しながらの避難訓練・夜間想定での避難訓練、避難経路の確認、近隣住民への協力依頼等日頃から利用者の安全を守るための訓練・要請を実施している。また消防署への直通電話・スプリンクラーの設置なども整備し火災に備えている。今回の震災により職員の家族の協力や近くの会社からの協力等を得、今後につながる支援体制もできた。また備蓄品の増量等の課題も明らかになり、災害対策の一層の充実に向けて全員で取り組んでいる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの尊重や言葉かけには十分注意した対応をしている。	全職員は一人ひとりに対して年長者であることを常に意識した対応をするよう心がけている。それぞれの個性を重視してテーブルの配置をしたり、排泄を促す声かけの工夫をしたりしている。またトイレや入浴の介助は同姓介助を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを図り、本人が思いや希望を表せるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活のペースに合わせた支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望を伺いながら、その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの嗜好・好み等を把握し、食事を楽しんで頂けるように対応している。テーブル拭きや準備・片付け等を利用者と職員が一緒に行っている。	食材は配達によるものであるが、生野菜などは火を通したり、調味料を用意して利用者の好みに合わせた味付けをしている。利用者の中には好みの食品（ふりかけ等）を楽しんでいる人もいた。配達以外の食材による一品なども含めて彩りよく、皿数の多い食卓を囲みゆったりとした和やかな雰囲気ですべてを楽しんでいた。また、おせち料理・もちつき・ひな祭り・彼岸・等行事ごとの食事でも利用者の楽しみになっている。	

茨城県 グループホーム榎子木

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食べた量や水分量を把握し、状態や力、習慣に応じて、栄養・水分量が確保できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	うがい等口腔衛生を支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、排泄の失敗やおむつの使用を減らせるように努力している。	一人ひとりの排泄パターンを把握しており、各人に応じた声かけをすることで半数以上の利用者は自立している。失敗が多くなったり、洗濯物が増えたりした場合には、受診して失敗の理由を把握し、声かけのタイミング等について全員で話し合いをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	出来るだけ一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しんで頂けるようにしている。	基本的には一日おきの午前中に入浴しているが、利用者の希望があれば毎日でも入浴は可能である。一人ひとりがゆっくり入れるよう職員は外から声かけ見守りをしている。季節の菖蒲湯、柚子湯、りんご湯等を楽しむと共に適宜入浴剤等で香りを楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を把握し、安楽な休息や睡眠を支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの健康状態を把握しながら、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の気晴らしになるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割・嗜好品・楽しみごと・気分転換等の活動を支援している。		

茨城県 グループホーム榎子木

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	公共公園が隣接しており、散歩等に出かけている。その他、買い物や季節ごとの外出を取り入れている。	天気の良い日には畑へ(敷地外)水やり・収穫に出かけたり散歩に出かけたりしている。広い庭ではお茶を飲んだり、昼食をしたりと常に外気浴をしている。週に1度は買い物外出を楽しんだり、家族と共に外食等を楽しむ利用者もいる。またイベントとしてりんご狩り等全員で楽しめる外出も年数回実施している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望に応じて、お金を所持したり、買い物等でお金を使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	その都度対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然豊かな環境の中に建物があるため季節感を常に感じることができる。居室や共有空間には、花を生けるなど居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関や居間には季節の花を飾ったり、季節ごとの飾り付けを利用者と一緒に作ったりして、常に季節感のある暮らしを楽しめるようにしている。玄関・居間・台所は天井も高く開放的でゆったりとしており、廊下の所々に腰を下ろせる空間があり、またソファを置いたりして何処でも寛げるように工夫してある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族に相談し馴染みの品や使い慣れた寝具、タンス等を持参し使って頂いている。	家族の写真やお位牌などを置いたりして、家族と一緒に暮らしているような雰囲気のある居室や家族用のソファが置いてあり頻りに家族が訪問していることをうかがわせるような居室、大きなテレビを置いて一人の時間を楽しんでいる様子の居室など、それぞれが本人に合った生活を楽しみ居心地よく過ごせるよう工夫してあった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全かつ出来るだけ自立した生活が送れるよう、一人ひとりの身体機能に合わせた環境づくりを工夫している。		

目標達成計画

作成日: 平成 23年 9 月 22 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	設立当初から「友愛」を理念として掲げているが、実際その言葉の意義やその理念をどのように施設運営と結びつけていくかの職員、経営側での掘り下げた話し合いはされていない。	経営者、全職員を通し、「友愛」を含めた理念を、地域密着型サービスの意義、地域におけるホームの役割などについてを意識し、一層多角的に理念を掘り下げる。その理念のもと、地域密着型サービス事業所としての役割を意識した経営、運営が行えるよう	職員会議、運営会議を実践する中で、理念という概念から掘り下げて話し合いを持つ機会を随時設けていく。	12ヶ月
2	35	東日本大震災により、緊急時等の備蓄、連絡体制、運営側と職員の役割分担等の弱点が浮き彫りになった。小さい施設であるが故の緊急時への備えの重要性を認識した。	備蓄管理の徹底、水等の備蓄の充実、連絡体制の強化	備蓄については予算配分を明確にし、不足していた部分は補い、備えてあったものはより充実させるようにする。職員会議等での話し合いを設ける。	15ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。